

学部・研究科等の研究業績

平成22年6月

帯広畜産大学

学部・研究科等の研究業績の件数一覧

- | | |
|----------------|-----|
| 1. 畜産学部・畜産学研究科 | 4 件 |
| 2. 原虫病研究センター | 4 件 |

学部・研究科等の研究業績

法人番号	5	法人名	帯広畜産大学	学部・研究科等番号	1	学部・研究科等名	畜産学部・畜産学研究科
------	---	-----	--------	-----------	---	----------	-------------

番号	細目番号	細目名	研究業績(氏名、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ、掲載年等)	区分	意義	「卓越した水準にある業績(SS)」と判断した根拠(第三者による評価結果や客観的指標等)【ゴシック体10ポイント、200字以内】
1	6102	応用微生物学	Wei, M., Takeshima, K., Yokoyama, T., Minamisawa, K., Mitsui, H., Itakura, M., Kaneko, T., Tabata, S., Saeki, K., Omori, H., Tajima, S., Uchiyumi, T., Abe, M., Ishii, S., and Ohwada, T. Temperature-dependent expression of TypeIII secretion system genes and its regulation in <i>Bradyrhizobium japonicum</i> . <i>Molecular Plant-Microbe Interactions</i> , vol. 23, 628-637. doi:10.1094/MPMI-23-5-0628 (2010).	1-b-ア	ア	「Molecular Plant-Microbe Interactions」は、植物と微生物の相互作用に関連した分野では国際的に定評のあるレフェリー制の雑誌で、インパクトファクターは4.407(2009年)である(植物サイエンス関連の全雑誌の中で10位以内に位置する)。論文掲載時のレフェリーから、 <i>Bjaponicum</i> とダイズの共生に重要な知見を含んでおり、内容は非常に興味深いと高い評価を受けている。
2	6102	応用微生物学	Itakura, M., Saeki, K., Omori, H., Yokoyama, T., Kaneko, T., Tabata, S., Ohwada, T., Tajima, S., Uchiyumi, T., Honnma, K., Fujita, K., Iwata, H., Saeki, Y., Hara, Y., Ikeda, S., Eda, S., Mitsui, H., and Minamisawa, K. Genomic comparison of <i>Bradyrhizobium japonicum</i> strains with different symbiotic nitrogen-fixing capabilities and other <i>Bradyrhizobiaceae</i> members. <i>The International Society for Microbial Ecology</i> , vol. 3, 326-339 (2009).	1-b-ア	ア	「The International Society for Microbial Ecology」は微生物生態学関連の分野では国際的に定評のあるレフェリー制の雑誌で、インパクトファクター(2009年)は6.397である(生態学分野の127の雑誌中5番目に位置する)。論文内容は <i>Bjaponicum</i> ゲノム構造が同属内でも種が異なると大きく特徴づけられる重要な知見を含んでおり、高い評価を受けている。
3	6105	食品科学	Hagio, M., Matsumoto, M., Fukushima, M., Hara, H., Ishizuka, S., Improved analysis of bile acids in tissues and intestinal contents of rats using LC/ESI-MS, <i>Journal of Lipid Research</i> , 50, 173-180, 2009	1-b-ア	ア	この論文は生体内の胆汁酸成分をLC/ESI-MSを用いて世界ではじめて検出できる方法を確立したものであり、脂質代謝などで権威のある専門誌 <i>Journal of Lipid Research</i> (インパクトファクター4.409(2008年))で掲載可と認められたものである。
4	6912	ウイルス学	Horie M., Honda T., Suzuki Y., Kobayashi Y., Hayashi Y., Daito T., Oshida T., Ikuta K., Jern P., Gojobori T., Coffin J.M. and Tomonaga K. 2010. Endogenous non-retroviral RNA virus elements in mammalian genomes. <i>Nature</i> 463: 84-87	1-b-ア	ア	本研究は、哺乳類ゲノム中に非レトロウイルス型ウイルス由来の配列が内在化することを示す最初の報告である。生物の進化過程における内在性ウイルスの獲得に関する新発見、およびウイルス感染が宿主の遺伝的新規性に果たした役割を知る重要な手掛りとなることが期待される。本研究が掲載された <i>Nature</i> は、自然科学分野では最も権威が高い雑誌の一つであり、現在のImpact Factorは31.434である。

学部・研究科等の研究業績

法人番号	5	法人名	帯広畜産大学	学部・研究科等番号	2	学部・研究科等名	原虫病研究センター
------	---	-----	--------	-----------	---	----------	-----------

番号	細目番号	細目名	研究業績(氏名、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ、掲載年等)	区分	意義	「卓越した水準にある業績(SS)」と判断した根拠(第三者による評価結果や客観的指標等)【ゴシック体10ポイント、200字以内】
1	6603	基礎獣医学・基礎畜産学	Altangerel, K, Alhassan, A., Iseki, H., Sivakumar, T., Damdinsuren, B., Yokoyama, N., and Igarashi, I: Evaluation of Babesia bigemina 200 kDa recombinant antigen in enzyme-linked immunosorbent assay. Parasitol. Res., 105:249-54, 2009.	1-b-ア	ア	第105回日本獣医学会賞受賞(横山直明:バベシア原虫の赤内型増殖に関する分子生物学的研究)の対象となった論文の一つ。バベシア原虫の赤内型増殖を制御する上で、Babesia bigeminaの200 kDa蛋白質は有望なワクチン分子の候補となることを明らかにした。
2	6604	応用獣医学	Hikosaka K, Watanabe Y, Tsuji N, Kita K, Kishine H, Arisue N, Palacpac NM, Kawazu S, Sawai H, Horii T, Igarashi I, Tanabe K. Divergence of the mitochondrial genome structure in the apicomplexan parasites, <i>Babesia</i> and <i>Theileria</i> . Mol Biol Evol. 27(5):1107-1116. 2010	1-a-ア	ア	アピコンプレックス門に属するバベシア及びタイレリアのミトコンドリア遺伝子の構造解析を行った。タイレリア・エクイはサイズが最も大きく、他のバベシアやタイレリアのミトコンドリア遺伝子構造と大きな違いが認められ、結果、アピコンプレックス門に属する原虫において特異的な進化を遂げている事を示しており、今後の治療薬及びワクチン開発に関し重要な発見である。本雑誌のImpact Factorは7.280である。
3	6910	寄生虫学	Ibrahim HM, Bannai H, Xuan X, Nishikawa Y. Toxoplasma gondii cyclophilin 18-mediated production of nitric oxide induces bradyzoite conversion in a CCR5-dependent manner. Infect Immun. 77(9): 3686-3695. 平成21年9月(2009)	1-b-ア	ア	感染免疫学で世界的に定評のある学術誌「Infection and Immunity」に掲載された研究業績である。本雑誌は、2008年度のISI Journal Citation Reports® Rankingで感染症分野で1位、免疫学分野で3位、Impact Factor: 3.987で、当該分野の上位にランキングされる。
4	6603	基礎獣医学	鈴木宏志、阿部靖之、浅野智由、諏訪義典「イヌ胚の凍結保存と移植」第147回日本獣医学会(2009.4)発表	5	ア	世界で初めてイヌ凍結受精卵由来の産仔を得ることに成功した報告であり、第147回日本獣医学会学術集会 優秀ポスター賞を受賞した。